

平成 30 年度 イギリス夏期英語研修 報告書

都市教養学部 経営学系 経済学コース

3 年 中山翔太

はじめに

私は、8 月 19 日から 9 月 9 日までイギリス夏期英語研修に参加させていただきました。この研修に参加しようと思った理由として、英語能力の向上はもちろんのこと、ヨーロッパの文化に触れることもありました。この報告書では、現地学校での授業内容や、現地での生活について自分なりに思ったことを書き綴っていこうと思います。

授業について

私たちは SOAS (ロンドン大学アジア・アフリカ学院) が開催するサマープログラムで 3 週間学びました。このサマープログラムには 5 つのコースがあります。4 つは英語を使って専門的なことを学ぶコースであり、残り 1 つは英語自体を学ぶ基礎的なコースでした。私は自分の英語能力にやや不安を感じていたため、英語を学ぶコースに参加しました。コースによって 1 日のスケジュールはバラバラですが、自分のいたコースでは午前、午後それぞれ 1 コマ 2 時間の授業が月曜から金曜までありました。午前はリーディングとライティングで午後はリスニングとスピーキングでした。どちらも NSE のような授業内容でしたが、NSE の先生たちとは違って会話スピードが速く、日本人向けに教えてくれているわけではないので、自分にとっては先生の言っていることがあまり理解できませんでした。最後の週にようやく慣れてきたぐらいで、もっと日本で英語を使う機会を設けていればと後悔しました。ただ、英語で表現する能力は向上したと思います。またこのサマープログラムの開催時期の都合上、日本人の学生が多く、自分のコースの 6 人中 5 人が日本人でした。現地の大学生との交流もあまりなかったため、多くの外国人との交流を求めるなら、他の研修を選んだほうがより良いと思います。逆に、英語を使って専門的な事を学びたい意欲があれば、この研修をぜひ選んで頂きたいです。

現地での生活について

3 週間、日本の学生会館のようなところに滞在していました。ベッドなどの個人のプライベート空間はありますが 3 人部屋でトイレ、シャワー、キッチンが共用でした。自分の部屋は全員が首都大生だったので、不便はありませんでした。日本のように 24 時間やっているコンビニエンスストアはなく、多少不便でした。物価も高く、大学内の食堂でもランチのプレートが 1000 円くらいするので、お弁当を作って持っていく人もいました。ロンドンは大都市なので比較的食事のバリエーションは豊富ですが、日本と比べリーズナブルではないので、サンドイッチやハンバーガーを食べる日が多かったです。また、滞在中テロや

大きな事件などは発生しませんでした。毎日救急車のサイレンが鳴って、街も汚く、日本よりは断然治安は悪かったです。

おわりに

ここまでネガティブな面を多く書いてしまいましたが、現地の人は優しく、つたない英語でも理解してくれようと必死に聞いてくれました。また世界的な都市だけあって、多くの観光地があり、休日や放課後はコースの友達や、首都大生と色々な所へ足を運びました。ビッグベンや大英博物館など有名どころから、自分はサッカーが好きなので、スタジアムツアーにも行ったりしました。日の入りが遅いので、長く遊ぶことが出来ました。街を歩いているだけでも、とても楽しかったです。貴重な3週間となりました。

この報告書を読んでいただいた方がロンドン英語研修を選んでくださったら嬉しいです。

